

いなむら市長の「い～なこの街尼崎」3月

テーマ：4月からの尼崎

月に1度、お届けしていますこのコーナー。今回は、「4月からの尼崎」と題しまして、新年度の尼崎市の取組についてお話していきたいと思います。

さて、皆さん「ひと咲き まち咲き あまがさき」このフレーズ、耳にしたことおありでしょうか。ああ知っているという人もいらっしゃると思います。これは昨年4月から新たにスタートをしました尼崎市の総合計画を策定する際に、みんなで使い続けられるキャッチフレーズをつけたいということで、広く公募をさせていただきまして、1600件を超える応募の中から選ばれたキャッチフレーズなんです。ちょうど10年間これからこの総合計画を私たち使っていくんですけども、「ひと咲き まち咲き あまがさき」この尼崎の地で、人々が、まちが、花を咲かせ、実を結び、種を残して、また次の花を咲かせていく。一人ひとりが成長し、活躍して、まちに活気を生み出していく。そして、その営みを未来に引き継いでいく。そんな思いが込められています。

さて、この総合計画、耳慣れない方も多いと思うんですけども、私たちがまちづくりを進めていくための一番基本になる計画になります。総合計画では、尼崎市が将来、どんなまちでありたいかということをも市民の皆さん、審議会の委員の皆さんと話し合いを重ねまして、4つの「ありたいまち」として示しています。

1つめは「人が育ち、互いに支えあうまち」、2つめが「健康、安全・安心を実感できるまち」、3つめは「地域の資源を活かし、活力が生まれるまち」、4つめが「次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち」です。どうでしょう皆さん、まあある意味奇を衒っていないといいますが、ごくごく当たり前の誰もがそうだよねと思うありたいまちの姿だと思うんです。

ただし、この時代、これからの10年間で、この尼崎というまちでこの4つのありたいまちに近づいていくためには、尼崎固有の課題に取り組んでいったり、尼崎の特徴を踏まえた取組が必要だと思うんです。私たちは、この総合計画を羅針盤として、皆が当然に思うありたいまちに近づいていくために、必要なことがちゃんとできているかな、ちゃんと近づけるかなということをしっかりチェックをしながら、取組を進めていきたいというふうに思っています。

もちろん新年度からの尼崎市の予算も、この4つのありたいまちということを踏まえながら編成をさせてもらいました。今日はこのありたいまちの柱ごとに、4月以降の尼崎市の取組などについてご紹介したいと思います。

まず最初は「人が育ち、互いに支えあうまち」です。これはやっぱり人づくり、まちづくりの基本になるところですね。特に「教育、もっと力を入れてほしいわ」というお声沢山いただいております。この教育にしっかり力を入れていくということは、この総合計画の中でも1丁目1番地だと思っています。教育といっても、学校教育はもちろんですし、やっぱり子供達を地域ぐるみで育てていく、そして私たち大人もしっかり学びあう。まあこういった本当に市をあげて全体の学びをもっともっと進めていきたいなと思っております。

具体的な事業としましては、まず学校で取り組んでいる「学力向上クリエイティブ事業」の中で、今度はやっぱり授業の中身をもっともっとレベルアップしていこうということで、指導力パワーアップ事業というのを実施します。今は団塊の世代から世代交代が進んで、学校の先生も若い先生が多くなっていま

す。そこにベテランの先生がしっかりとアドバイスに入って、学校全体のレベルアップに繋げていこうという取組です。

また、まち大学あまがさきを検討していく事業というのでも進めていきます。これは今も公民館でも色々な講座をやってる、地域では色々な活動がある、でも、自分が何かやってみたいなという時にどこに行けば情報があるかわからへん。色々な人とどうやったら繋がれるのかわからない。そういったお声も沢山聞いています。そういった学びの場や実践に向けての繋がり作りっていうのを、もっともっと全市民的に集めて、そしてもちろん縦割りの壁を越えて進めていきたいなということで、取組をしようとするものです。

そういった人材がしっかりと育まれていく環境整備、そしていわゆる市民力をどんどんアップしていくための、活性化に繋げていきたいというふうに思っております。まだまだ準備段階ですけれども、市民の皆さんと一緒にこれも進めていきたいと思っています。

2つめの柱は「健康、安全・安心を実感できるまち」、まずやっぱり健康と言いますともう皆さんも知ってくださっているかもしれませんが、尼崎市では生活習慣病の予防に力をいれています。これは引き続き来年度も取り組みますけれども、加えまして、これも皆さんから頑張っていけないとねと言われております防災ですね。尼崎市はご承知のとおり地盤が低いエリアが非常に沢山あります。津波の対策ももちろんですし、もちろん災害というのはどんな種類のものがくるかわかりませんから、やっぱり全てを想定して備えておくというよりは、どんな形があっても臨機応変に対応できる地域の力や普段からの訓練というのがとっても大事だと思っています。

そういった取組をしっかりとやりますとともに、本当にそういった防災活動、また、いざという時の基本になります地域防災計画いよいよ本格的な見直し作業に入りますのと、それをもっともっと親しみやすい形で市民の皆様にもお伝えしたいということで各種災害のハザードマップを盛り込んだ尼崎市防災ブックというのを作りまして、皆さんにお配りをしたいというふうに思っております。

また、尼崎市の安全・安心の取組としては、ひったくりをはじめとする街頭犯罪の防止ということにも今力を入れています。今年度ですね、4年ぶりにひったくりの件数を減少させることができました。今、ひったくり撲滅宣言という事で私たちとても力を入れているんですけれども、これからも更にマップ作りですか、やはり皆さんと一緒に予防に取り組んでいくということで、撲滅に向けてもっと頑張っていきたいというふうに思っております。皆さんも車道の側にかばんを持たないとか、自転車のごに荷物を入れる時は必ずカバーや上に何か1つおいてもらう、ほんの小さな心がけでかなり予防に繋がりますので、日頃からこういうひったくりにあわない、そういった取組、是非お願いしたいと思います。

3つめは「地域の資源を活かし、活力が生まれるまち」です。尼崎市はこれまた言うまでもなく産業都市として発展を遂げてきた街です。こういった尼崎市の企業の皆さんに環境と共生をしながら、新しいビジネス、どんどんと活性化をさせていきたいということで、色々な連携した取組を進めています。

特にこれからは景気が回復した時に、CO2もどんどん増加してしまうというのではなくって、当然、物を作ればCO2は出るんですけれども、如何に効率良く少ないCO2ですむようにものを作るか、もしくは尼崎で作られた製品がやっぱり全体のCO2の削減や環境の取組に大きく貢献するといったところの取組をしっかりと応援していきたいということで、中小企業の方々がそういう省エネの機材などを導入される際の応援ですとか、また、金融機関から有利に融資が受けられるような取組、継続して進めていき

ます。

またですね、色んな設備投資の時に市内の企業にその発注をしていただいた場合には、もっと有利な仕組みというふうにしておりまして、やっぱり市内企業の元気にも繋げていきたいというふうに思っています。

また、これも力を入れています尼崎市のイメージをもっともっと新たな面も含めて発信していこうというシティプロモーション推進事業、来年度も色んな取組を予定しておりますけれども、今年開催しましたシティプロモーションサミットという横連携の第2弾ということで、義経・与一・弁慶・静にゆかりのある市町村が集まって、サミットを開催しています。そのサミットを尼崎市で開きたいというふうに思っています。

尼崎市と義経や弁慶、なんで関係あんの？というふうに思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、能楽、また落語なんかでも取りあげられます「船弁慶」という作品があるんですけども、実は尼崎の大物の浦が舞台になっています。ここから義経、また静が、落延びていったということで、その場面が題材になっているんですけども、尼崎市はそういう非常に歴史の深い古い街ですので、そういった薪能が盛んに継続されていたり、落語も盛んですし、そういった尼崎のちょっと意外なと言うか、新しい一面も全国の方にも沢山知っていただきたいし、もちろん尼崎市の皆さんにも再認識していただきたいというふうに思っております。

4つめの柱は「次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち」です。これはですね、今色んな公共施設の老朽化なども進んでいます。橋や道路のメンテナンスもやっていかないといけません。でも一方で人口が減っていく時代、どんどん作るという時代からしっかり守っていく、今あるものを活かしていく、またメンテナンスは費用が平準化されるように、そして全体の費用が安くすむようにですね。長寿命化を図っていくというような取組を予定もしています。今、それに向けて色々な計画づくりを進めています。当然、この街に暮らし、働く皆さんにもご協力・ご理解をいただかないといけない取組だと思っておりますけれども、しっかり説明して進めていきたいと思っております。

また、駅前の放置自転車の対策ですとか、住宅をエコリフォームということで、より環境性能の高い住宅にリフォームしていただく、そういうのに対する助成ですとか、尼崎市のストックの質を上げたり、そういう駅前の環境整備をしっかり進めて、自転車レーンなどの整備などにも取り組みたいと思っております。そうやって次の世代に財政面でも、そして暮らす環境という意味でもしっかりとより良い明日を繋いでいきたいというふうに思っております。

アベノミクスということが言われて、ちょっと景気が回復するのかなどうかと動向を注目しているという方が多いと思うんですけども、やはりそういう景気回復の兆しですとか、この街の魅力や暮らしやすさということをもっともっとやっぱり実感に繋げていかないといけないというふうに思っております。

そのためには、身近なそういう自転車の問題ですとか、私たちが気になる防災の問題、街頭犯罪の問題、そういった問題にも目をそらさず、しっかり対応していくということ、そして我が街の産業や色んな文化の魅力などをしっかり発信していくということ、こういったことを車の両輪で進めるということをしっかり肝に銘じて、来年度も尼崎市役所一丸になって、市民の皆さん、事業者の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っております。皆さんどうぞよろしく願いいたします。それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに・・・。